

日銀の視点

JR常磐線高萩駅の駅前に銅像がある長久保赤水は、水戸藩の郷土で、日本最初の本格的な地図を完成させた人物である。収集した全国の書物・地図のほか、旅人からの情報に基づき、正確な地図を作成し、長きにわたり活用されるものとなった。また、現在のつくばみらい市に生まれ、江戸幕府の役人に登用された間宮林蔵は、伊能忠敬の弟子として測量学を学んだ。樺太の調査のため、命懸けの航海に出たことでも有名だが、伊能

日銀水戸事務所長

稲見 征史

忠敬のわが国初の実測地図において、北海道の測量結果は間宮の功績とされている。

このように、本県の2人の偉人は、人々の道しるべとなる地図の発展に貢献したわけだが、従来よりも複雑で不確実性の高い社会を生きていく

国の中学生を対象とした「おかねの作文コンクール」と、高校生等を対象とした「金融と経済を考える高校生小論文コンクール」を実施している。

締切はいずれも9月15日。本県では、一昨年は霞ヶ浦高の1年生が、昨年は県立土浦一

済的な視座やお金に対する価値観を見いだす機会になればよいし、今後の進学・就職など成長する中で、その視座が羅針盤となり、将来において、情勢の変化に対処できる力にもなるだろう。そして、作文

・小論文に書かれている内容は、若い柔軟な発想からの地域経済や企業に対する斬新なアイデアの宝庫であり、自身や家族・地域とのつながりを通じた自己実現の目標でもあると感じる。

経済について考える夏

現代の若者たちが、金融経済の知識を深め、そして、今後の道しるべをつかむきっかけになるかもしれないイベントを紹介したい。

金融経済教育推進機構（J-FLEC、東京）では、全

夏休みを活用し、お金や金融経済について調べ、考えをまとめてみる。それにより経

このコンクールは大人にとっても、われわれがつくってきた社会が若者たちにどのよう

安を抱き、具体的な考えを持って進むつもりとしているのかを理解できる点で有益な機会だ。公表される受賞作品を通じて、今年も新たな出会いがあることを心待ちにしている。

最後に、話題は変わるが、日本銀行水戸事務所は8月1日で開設80年を迎えた。当事務所の歴史や役割については、同日付の本紙に取り上げていただいたが、県内の皆さまのこれまでの支援に改めて御礼申し上げるとともに、今後も金融経済教育の推進など各種金融サービスの提供を通じて、県内経済の発展に尽力してまいりたい所存である。